

障害児教育

「相談」0歳児から

来年度から就学への不安解消

文部省は二十三日までに、障害のある子供の発育や就学などの相談の対象年齢を、従来の「幼稚園高学年」から「零歳児にまで広げ、全国八カ所に専門の相談員を配置し「早期教育相談」に乗り出す方針を決めた。

実施は来年度からで、同省が零歳児からの教育相談にかかわるのは初めて。各地の盲、ろう、養護学校の教諭らが連携して支える。

また、重い障害のため学校に通学できない義務教育年齢の子供を対象に実施し

ている養護学校の「訪問教育」について、学習の機会を増やすため新たに高等部（高校）段階の子にまで広げて来年度春実施を目指し、単位認定の方法などの調査研究を進める。

早期教育相談と養護学校高等部での訪問教育は、七月の中央教育審議会第一次答申で検討の必要性が指摘されていた。

現在の早期教育相談は保健所や児童相談所が中心だが、親からは「就学への不安をなくすため、できるだ

け早期に学校関係者が相談に乗ってほしい」という声が高まっていた。

計画によると、各地の教育センターと盲、ろう、養護学校のネットワークをつくり、窓口となる教育センターに教員OBらを相談員として配置。親からの相談には、相談員だけでなく教諭らも協力し、障害に応じたコミュニケーションや就学までの訓練などについて説明する。

同省は来年度予算の概算要求に早期教育相談の実践

研究として三千万円を盛り込み、全国八カ所を「モデル地区」に指定する。

同省は「視覚、聴覚、知的発達などの障害を早期に把握できれば、親子のコミュニケーションなど、さまざまな能力を就学前に養うことができる。育児や就学での親の悩みや不安を和らげたい」（特殊教育課）としている。

研究会予告

全日聾研・水戸大会聴能関連発表

10月17日

①基本問題 I

「相互通話式集団補聴器及び聴覚口話教育についてのアンケートに対する一考察」
札幌聾学校 柴田和千代

「養護・訓練における実践事例－「補聴器と学習についてのアンケート」を参考にして」
筑波大学附属聾学校 伊藤僚幸

⑦中・高等部（国語・数学以外の教科）※

「聴覚障害児の三和音のききわけ（その2）」 上越教育大学 星 憲二郎

⑩重複障害教育

「幼児聴検における視覚的フィードバックの一考察」 大宮ろう学校 広瀬朋子

⑪養護・訓練（発音・言語）

「人工内耳装用幼児のリハビリテーション（その2）」 一宮聾学校 加藤昭子

⑫補償工学（聴覚活用）

「意欲的な聴覚学習をめざして－環境音の聴き取り学習を通して－」
山形聾学校 延本 啓二

「高等部における補聴に関する意識調査について」 筑波大学附属聾学校 大竹 一成

「最重度難聴児の補聴を考える－全周波数帯スケール外であったS児の指導をとおして－」
一宮聾学校 加藤 哲則

「幼稚部における耳掛け型FM補聴器の導入」 三重県立聾学校 八木 治

「本校幼稚部にみる早期発見の現状－早期教育・幼稚部保護者へのアンケート結果から－」
大阪市立聾学校 中瀬浩一

「人の和が支える聴覚活用－徳島補聴研究会の紹介－」 徳島県立聾学校 相澤浩樹

「補聴器Fitting法への一提案－補聴器周波数特性の決定方法について－」
筑波大学 立入 哉

⑫補償工学（教育機器）

「『聴覚ファイルプログラム』の試作について」 盛岡聾学校 永野哲郎

「赤外線を利用した集団補聴システム」 山形県立聾学校 大原良紀

「人工衛星と聴覚補償」 筑波技術短期大学 高橋秀和

⑬寄宿舍教育※

「電話やファクシミリの使用について」 秋田聾学校 小松 容

※の分科会会場は水戸聾学校、それ以外は県民文化センターが会場になっている。

聴能関連の発表がいろいろな分科会で発表されるが、発表会場が分かれており、発表時間も前日に決まるので、自分の聞きたい発表を複数の分科会にまたがって聞くことができないという問題がある。他の分科会の特定の発表を聞きたい場合は、16日夜に司会者などに発表時間の目安を聞くしかない。せめて17日の朝に掲示して欲しいのですが・・・。

研究会予告

日本特殊教育学会 自主シンポジウム

聴覚障害児童・学生のインテグレーションに関して、次のような自主シンポジウムが開催されます。今後のインテグレーションの在り方に、重要な方向性を与えるものと思われますので、是非ご参加ください。普通学級の担当の先生にもご紹介ください。

—日本特殊教育学会 第34回大会 自主シンポジウム20—

[主題] 聴覚障害学生のインテグレーションの援助システムの確立を目指して

[企画要旨] 近年、一般の学校で学ぶ聴覚障害児童や学生が増えているが、彼等に対する普通学級での支援は一部の担当教師や、限られた友人の個人的援助にとどまることも多く、聴覚障害学生に必要な公的援助はほとんど無いといって良い。聴覚障害児童・学生の可能性を期待するとき、今後の彼等のインテグレーション援助対策の在り方を明確にしたい。

[司会者] ・鷲尾純一（国立特殊教育総合研究所聴覚障害教育研究部）
・永井留美子（明治学院大学・関東聴覚障害学生懇話会）

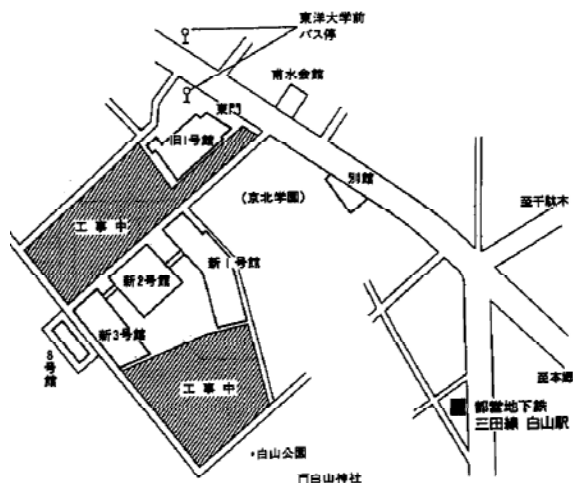
[話題提供者]（内容概略）

- A. 吉川あゆみ／明治学院大学・関東聴覚障害学生懇話会
（聴覚障害学生のインテグレーションサポートの実態と希望）
- B. 金山千代子／聴覚障害児と共に歩む会・トライアングル教育部
（幼稚園・小学校・中学校・高等学校でのインテグレーションの実態から）
- C. 野村みどり／東京都立医療技術短期大学
（アメリカにおける聴覚障害学生のサポートシステムから学ぶこと）

[日 時] 1996年9月16日（月）＊代休日 14時50分～16時50分

[場 所] 東洋大学文学部教育学科内 1404教室／自主シンポ20
東京都文京区白山5-28-20
（都営三田線白山駅5分）

[備 考] 学会会員以外の
一般参加可能



「最早期教育」を指向する動き（1頁掲載）は、下記の答申の影響を受けていると思われる。この教育に関係するような部分〔第2部、第1章（2）のみ〕をお届けします。重要な答申ですので、全文をお読みになりたい方は記事文末をご参照下さい。

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」

中央教育審議会 第一次答申

第15期中央教育審議会（会長：有馬朗人・理化学研究所理事長）は、昨年4月に「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」について諮問を受け、これまでに主な検討事項のうち、「今後における教育の在り方及び学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方」並びに「国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方」について精力的に審議を進めてきた。そして、本年6月に公表した「審議のまとめ」への関係団体などからの意見を踏まえて更に審議を深め、7月19日に開催された第197回総会（第15期としては第13回総会）において、奥田文部大臣に対して第一次答申を提出した。

目次

はじめに

第1部 今後における教育の在り方

第2部 学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方

第1章 これからの学校教育の在り方

(1) これからの学校教育の目指す方向

(2) 新しい学校教育の実現のための条件整備等

[1] 教員配置の改善 [2] 教員の資質・能力の向上

[3] 学校外の社会人の活用 [4] 学校施設など教育環境の整備

[5] 関係機関との連携 [6] 様々な専門家と教員等との連携

[7] 幼児教育の充実 [8] 障害等に配慮した教育の充実

第2章 これからの家庭教育の在り方

第3章 これからの地域社会における教育の在り方

第4章 学校・家庭・地域社会の連携

第5章 完全学校週5日制の実施について

省略

省略

第3部 国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方

第1章 社会の変化に対応する教育の在り方

第2章 国際化と教育

第3章 情報化と教育

第4章 科学技術の発展と教育

第5章 環境問題と教育

省略

第2部 学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方

第1章 これからの学校教育の在り方

(2) 新しい学校教育の実現のための条件整備等

[1] 教員配置の改善（抄）

個に応じた教育をこれまで以上に推進していくためには、各学校において、学習集団の規模を小さくしたり、指導方法の柔軟な工夫改善を促したりできるよう、人的な条件整備を一層進めることが必要である。今後、教員配置の改善を進めるに当たっては、当面、教員一人当たりの児童生徒数を欧米並みの水準に近づけることを目指して改善を行うことを提言したい。なお、教員配置の改善に関連して、社会人の活用や小規模な中学校における免許外教科担任の解消などを図る観点から、小・中学校において非常勤講師の活用が一層進められるような措置が講じられるよう提言したい。

[2] 教員の資質・能力の向上（抄）

教員養成については、[生きる力]の育成を重視した学校教育を担う教員を育てるとの観点に立って、教育相談を含めた教職科目全体の履修の在り方、教育実習の期間・内容の在り方、さらには、幅広く将来を見通して、修士課程をより積極的に活用した養成の在り方などに特に留意する必要がある。もちろん、こうした検討を待つまでもなく、教員養成を行う大学においては、ファカルティ・ディベロップメント（教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称）を進めつつ、教育現場の実際のニーズを踏まえた教育やこれに資する研究を充実させていくことを求めたい。

教員研修については、大学院等における現職教育や、教員の社会的視野を広げるため、民間企業、社会教育施設、社会福祉施設等での体験的な研修を進めることが必要である。また、いじめ問題への対応など、すべての教員について基礎的なカウンセリング能力の育成を充実する必要がある。

教員の採用に当たっては、人物評価重視の方向で選考方法の多様化や評価の在り方を改善し、教員にふさわしい優秀な人材を確保していく必要がある。同一の採用枠においても異なる尺度で多様な選考方法を採用すること、採用に当たっての年齢制限の緩和、学校種別ごとの採用区分の弾力化、人事交流の実施などの工夫も有効と思われる。また、生き生きとした学校づくりの要である教員の適材適所の配置について、一層配慮していくことが重要である。

なお、教員の養成、採用、研修の各段階を通じ、より円滑かつ効果的に教員の資質・能力の向上を図るためには、大学の教員養成関係者と教育委員会等の採用・研修関係者との間の一層の連携・協力が不可欠である。

[3] 学校外の社会人の活用（抄）

学校外の社会人の指導力を、学校教育の場に積極的に活用することを提言したい。豊富な知識・経験を有する退職教員等を積極的に活用することも併せて提言したい。

[4] 学校施設など教育環境の整備（抄）

教室はもとより、例えば、屋外の環境整備やランテールームの整備を図ることは、学校全体を「ゆとり」と潤いのある環境にしていく上で、重要である。また、多目的スペースの整備など個に応じた指導を展開できる柔軟な教育環境の整備を進める必要がある。

[5] 関係機関との連携（抄）

単に学校だけを教育の場と考えるのではなく、子供たちの体験的な学習の場を広げ、豊かな社会性をはぐくんでいくために、社会教育施設、青少年教育施設、文化施設、スポーツ施設などの公共施設や企業等の機関との連携を積極的に図り、教育の場を広く考えて、教育活動を展開していくことが必要である。

[6] 様々な専門家と教員等との連携（抄）

昨今のいじめ問題等の状況にかんがみ、子供に対する相談のみならず、教員に対する助言を行うなど学校において重要な役割を果たしているスクールカウンセラーについては、その配置の一層の充実・促進を図るべきである。

[7] 幼児教育の充実（抄）

幼稚園において、健康な心身、社会生活における望ましい習慣や態度、自発性、意欲、豊かな感情、物事に対する興味・関心、表現力等といった小学校以降における学習の基盤となるものをしっかりと育てることは、将来の体系だった学習を実りあるものとする。その意味で、教育内容について幼稚園と保育所との共通化などは、一層配慮することが望まれることである。一方、女性の社会進出等が進む状況に対応し、幼稚園においても、保育所との目的・機能の差異に留意しつつ、預かり保育等運営の弾力化を図っていくことが必要となっている。希望するすべての3～5歳児が幼稚園教育の機会を与えられ、様々な教育を受けられるように、幼稚園の整備を推進する必要があると考える。

[8] 障害等に配慮した教育の充実（全文）

障害のある子供たちに、可能な限り社会的な自立や参加をし得る〔生きる力〕を培うことは極めて重要なことである。現在、障害があることにより、通常の学級の指導を受けることが困難であったり、それだけでは能力を十分に伸ばすことが困難な子供たちについては、一人一人の障害の特性等に応じ、特別の教育内容・方法、小人数学級などにより、きめ細かな教育が行われている。盲・聾・養護学校においては、通学が不可能な子供たちには、その家庭等に教員を派遣して指導する小・中学部の訪問教育も実施されている。障害が軽度な子供たちには、通常の学級に在籍しつつ、一定時数、別に特別の指導を受ける通級指導が拡充されつつある。また、小・中学校の通常の学級において指導を受けることが適当で歩行が不自由な子供のためには、エレベーター、スロープ、専用トイレ等の設置を進めている。このように、障害のある子供たちの教育については、これまで、その充実のための努力が種々払われてきているが、これらの子供たちに〔生きる力〕をはぐくみ、可能な限り社会的な自立や参加を実現させる観点に立って、一層指導内容・方法・体制の改善・充実や多様化に努め、教育条件の整備を進めることが必要であると考えます。また、学習障害（LD）児に対する指導内容・方法等についての研究を一層促進する必要があります。

盲・聾・養護学校や特殊学級に通う子供たちにとって、学校の内外において、様々な人々と触れ合うことは、極めて大切なことである。こうした観点から、小・中学校の通常の学級の子供や地域の人々と共に過ごす時間や場を設けるために、運動会等の学校行事やクラブ活動、給食、また、一部の教科などにおいて交流教育が行われてきている。このような交流教育は、障害のある子供たちにとって極めて有意義であるばかりでなく、参加する教員やすべての子供たち、また、地域の人々にとっても非常に有意義な活動であり、今後、このような交流の機会を、更に増やすための努力と工夫が必要である。そして、小・中学校等の教員や子供たちはもちろん社会全体が彼らへの理解を一層深めていくことを強く望むものである。

また、障害のある子供の保護者は、一般に、かなり早い時期に子供の障害等に気づき、子供の発達の遅れや将来について深刻な不安や悩みを持つことが多いと考えられる。このような保護者の不安や悩みにこたえるために、子供の将来の発達の可能性について正確な情報を提供したり、家庭での教育について相談を行ったりする早期教育相談体制の充実や盲・聾・養護学校の幼稚部の整備が必要である。

さらに、障害のある子供たちの社会的自立を最大限に実現するという見地から、盲・聾・養護学校、特に養護学校の高等部のより一層の拡充整備が必要と考える。そして、高等部の生徒の卒業後の職業的な自立に資するための職業教育の改善・充実や多様化を図るとともに、進路指導体制を強化し、企業等との連携や卒業者への支援の取組などを一層進めることが必要である。また、養護学校高等部における訪問教育の実施についても検討することが必要である。

教員については、障害のある子供たちの教育の充実のために、養成、採用、研修を通じて、その専門性・指導力を一層向上させるとともに、小・中学校等の教員に障害のある子供たちへの理解を深めさせるため、異校種間の人事交流の促進や研修の充実を図っていく必要がある。

※本文ゴシック文字指定は、編集部にて付けた。

※答申全部をご覧になりたい場合、PC-VANからJ MONBUSHOで「文部省文教行政情報」にジャンプし、「CGJ0000006 中央教育審議会」の項をご参照下さい。

電子情報通信学会
東京支部講演会

「福祉と情報・通信」

日時：96年10月23日（水）14:00～16:00

会場：前橋テルサ けやきの間 TEL:0272-31-3211

JR前橋駅下車 徒歩15分

題目：福祉と情報・通信

講師：麻生茂（日本光電工業（株）R&Dセンター）

参加費：無料（事前の参加申込不要）

問い合わせ先：電子情報通信学会東京支部（TEL:03-3433-6691）

演題募集

電子情報通信学会教育工学研究会（ET）

日本聴覚障害・教育工学研究会共催

日時：11月22日（金）信州大学工学部

テーマ：障害児（者）／特殊教育

演題の申し込みは、9月10日までに、学芸大学：中村直人先生に連絡を。

TEL:0423-25-2111(内2503) FAX:0423-22-9898 E-mail:nakamura@cs.u-gakugei.ac.jp

いくつかのニュースから

★福島智さん、東京都立大学人文学部助手に採用された

福島さんは、初の盲ろう者の大学生として83年に都立大人文学部に入学、「指で聴く」「渡辺荘の宇宙人」の著者として、吉川英治賞を受賞している。その後、首都圏の大学の非常勤講師をしながら障害児教育を研究。今年度から、初の盲ろう重複障害大学教員として正規採用された。福島さんは、人文学部教育学研究室（茂木俊彦教授）に配属された。

★千葉市が障害児教育センターを開所

千葉市では福岡市の発達教育センターをモデルに、障害児教育に関しての相談、指導、調査研究、教職員の研修などを行うセンターを8月に開所した。ちなみに、モデルとなった、福岡市発達教育センターに昨年、立ち寄る機会を得たが、名称に始まり、内容もなかなかのセンターだった。

★京都市に「通級制」難聴学級開設

西日本は難聴学級が多いのが特長だ。京都市には今まで固定式難聴学級のみであったが、この4月より京都市に「ことばの教室」に併設の形で、5教室程度の通級制学級を設けたという。

★総務庁が教員の障害者採用について勧告する

総務庁は、「障害者の雇用・就業に関する行政監察」の結果に基づき、本年5月20日、労働省および文部省に対し、改善措置を講ずるよう勧告した。都道府県教育委員会の障害者雇用率は、公的機関の法定雇用率（2%）を著しく下回る0.9%であった。このため、障害者の雇用を促進するために、中学・高校などの教員採用方法の改善などを求めている。

★聴導犬の育てよう

愛知県岡崎市の大西滋さんは、アメリカで聴導犬訓練士の資格認定を得て来た。大西さん自身、聴覚障害者であり、現在も4匹の聴導犬と暮らしている。現在、日本では盲導犬は公に認められた存在だが、聴導犬についての規定はない。そこで、盲導犬と同程度の市民権を得ること、聴導犬のトレーニングセンターを作ることなどを目標に「育てる会」を結成した。同会の連絡先は、〒444-31 愛知県岡崎市滝町字外浦251 FAX: 0564-46-3431。

★電子情報通信学会ソサエティ大会開催

日時：9月18～21日

場所：金沢大学角間キャンパス（金沢市角間町）

関連発表：A-14：ヒューマンコミュニケーション基礎

「手話表現における有意部分検出法」 棚橋真・青木由直（北大）

「手話3Dアニメーションにおける手指動作の表現方法について」

亀井了・長嶋祐二（工学院大）

講座報告

愛媛大学公開講座 「きこえとその活用」

例年の補聴器フィッティング関連講座の1つ、愛媛大学公開講座「きこえとその活用」が8月9～11日の日程で行われた。今年は、北は長野・横浜から、南は鹿児島からの参加者、約60人を迎えての講座だった。この公開講座のメインは実習を中心とした内容が数多く選択できること。今年は、「聴力検査」から「人工内耳の調整」まで、18のテーマから選択するコースが用意された。また、講師も聾学校教員・難聴学級教員や、通園施設園長までの多彩な顔ぶれ。来年で本講座は10周年を迎える。

内容

9日 (金)	9:30 聴覚の学習とコミュニケーション 高橋信雄(愛媛大学教育学部) 13:00 きこえと聴覚学習の理論と実際 立入哉(筑波大学心身障害学系)
10日 (土)	ワークショップ(9:00～17:00) A: 補聴器の適用ときこえの活用のための実習 B: 参加者の興味や疑問に応じたコースでのワークショップ
11日 (日)	9:00 乳幼児期の聴覚活用の理論と実践 澤田道夫(広島市立山彦園) 13:00 医学的立場からみた聴覚活用の問題 暁 清文(愛媛大学医学部)

10日の実習の内容

	初心	中級A	中級B	上級	Educational Audiologyコース			
9:00	聴力検査	音場聴力検査	音場聴力検査	補聴器の特性	補聴器の調整	耳型の採型	FM補聴器	幼稚園部の聴覚学習
10:30								
10:50	音場聴力検査	補聴器の特性	補聴器の特性	補聴器の調整	発音発語指導	トランソニックの使用	インサクションゲイン	小学部の聴覚学習
12:20								
13:40	補聴器の特性	補聴器の調整	補聴器の調整	福祉法・幼児聴検	集団補聴器	発音訓の使用	小学部の聴覚学習	ケース中心のワークショップ
15:10								
15:30	補聴器の調整	人工内耳の調整	語音聴力検査	音響分析	音場聴力検査	難聴学級の指導	幼稚園部の聴覚学習	
17:00								

[主な内容]

補聴器の特性：補聴器の調整装置について、調整の変更による周波数特性の変化を学ぶ。

補聴器の調整：補聴器フィッティング概論。オーディオグラム上で基礎と事例を学ぶ。

インサクションゲイン：2ccカプラでの周波数特性との違いを測定から体験する。

音響分析：楽器や声の音響的分析を実際に行い、分析方法とBOAでの利用を学ぶ。

人工内耳の調整：マッピングの装置に触れ、スピーチプロセッサの仕組みと調整を学ぶ。

「PiPiとベビのボウリング、おもしろいね、勇気を
 伝えてくれる。ヒモステキなアニメーション映画です。」

都道府県	連絡先名称 (ご担当者名)	住所	電話番号	FAX
北海道	北方映像フォーラム(安田)	069 江別市野幌若葉町24-1	011-385-9989	384-9499
青森県	青森県映画センター(大塚)	030 青森市堤町2-1-16	0177-73-4543	73-4544
岩手県	盛岡フォーラム(長澤)	020 盛岡市大通1-11-8	0196-22-4703	22-4702
宮城県	東北放送事業局(豊岡)	980 仙台市青葉区国分町3-1-1-2F	022-227-2715	
秋田県	秋田県映画センター(児玉)	010 秋田市山王2-6-29-1F	0188-62-9978	62-0879
山形県	山形県映画センター(長澤)	990 山形市大手町4-3	0236-41-0343	41-6628
福島県	制作委員会へ(右頁下)			
新潟県	シネウインド(斉藤)	950 新潟市八千代2-1-1-1F	025-243-5530	243-5603
茨城県	制作委員会へ(右頁下)			
栃木県	栃木県映画センター(金子)	320 宇都宮市池上町4-3	0286-33-7646	36-8640
群馬県	にっかつ映画事業部	113 文京区本郷3-28-12	03-5889-1016	5889-104
埼玉県	埼玉県映画文化協会(舟橋)	336 浦和市仲町3-2-1	048-822-7428	824-3263
千葉県	にっかつ映画事業部	113 文京区本郷3-28-12	03-5889-1016	5889-104
東京都	東京フィルムズ(西口)	181 三鷹市下連雀3-10-6-104	0422-42-1758	42-1769
神奈川県	神奈川映画センター(小納谷)	221 横浜市神奈川区二ツ谷1-11	045-323-4195	323-4197
静岡県	静岡教育映画			
山梨県	制作委員会へ(右頁下)			
長野県	制作委員会へ(右頁下)			
岐阜県	岐阜教育映画センター(平野)	500 岐阜市伊吹町1-11	0582-63-3334	66-6627
愛知県	あいち教育映画(平野)	456 名古屋市熱田区沢下町9-3-302	052-883-6982	883-6958
三重県	三重県映画センター(岡田)	514 津市大門32-3	0592-28-1810	26-7086
富山県	協和総商(石崎)	933 高岡市末広町2-13	0766-21-0319	21-0331
石川県	昭和住宅(林)	921 金沢市西泉1-165	0762-42-0072	42-0036
福井県	福井県中小企業同好会	連絡は、あいち教育映画(平野)まで	0776-54-9699	
滋賀県	滋賀県映画センター(岩瀬)	520 大津市唐橋町7-41	0775-33-1897	34-8544
京都府	京都映画センター(竹内)	604 京都市中京区河原町二条西入る	075-256-1707	255-1905
大阪府	大阪映画センター(大塚)	544 大阪市生野区林寺4-11-30	06-719-2233	719-2007
兵庫県	兵庫県映画センター(岡本)	650 神戸市中央区北長道4-3-13	078-331-6100	331-6158
奈良県	奈良県映画センター(米戸)	630 奈良市東紀寺町2-1-B301	0742-23-1147	23-1158
和歌山県	築映興業	640 和歌山市元寺町1-13	0734-33-0444	33-3875
鳥取県	鳥取映画センター	680 鳥取市吉成2-15-25		
島根県	山陰映画センター	690 松江市大正町442-3	0852-25-5713	24-1916
岡山県	中国共同映画社(滝本)	700 岡山市駅前町2-4-19-2F	0862-23-0904	23-9844
広島県	広島映画センター(牛尾)	730 広島市中区八丁堀12-15	082-221-0271	223-7745
山口県	山口県映画センター(山本)	750 下関市東大和町1-1-17	0832-87-0543	87-9514
徳島県	徳島映画センター(四宮)	770 徳島市北田宮町2-6-37	0886-31-5847	31-5848
香川県	香川映画センター(樋口)	760 高松市茜町17-23	0878-35-2077	35-0006
愛媛県	えひめ映画センター	790-11 松山市来住町1462-1	089-956-0284	958-3940
高知県	四国文映社(馴田)	780 高知市上町3-9-14	0888-22-7486	22-7488
福岡県	九州シネマアルチ	810 福岡市中央区春吉3-22-17	092-712-5297	714-4164
佐賀県	九州シネマアルチ	810 福岡市中央区春吉3-22-17	092-712-5297	714-4164
大分県	大分シネフォーラム(渡辺)	870 大分市府内町3-2-24-2F	0975-36-0626	33-6068
長崎県	長崎県映画センター(保坂)	850 長崎県大井手町21	0958-24-2974	24-2958
熊本県	熊本映画センター(木村)	862 熊本市水前寺1-22-18-104	0963-81-1214	81-1293
宮崎県	宮崎映画センター(堀)	880 宮崎市堀川町202	0985-25-0809	27-0889
鹿児島県	鹿児島県映画センター(徳永)	892 鹿児島市西千石町8-21	0992-23-0435	23-0431
沖縄県	沖縄県映画センター	902 那覇市寄宮1-8-48	0988-55-0092	55-4215

字幕付き映画**「あぶない刑事リターンズ」**

9月14日より全国東映系では「あぶない刑事リターンズ」を上映致します。
この映画の日本語字幕付きプリントの上映劇場および上映日程を下記の通りお送りします。各上映日は終日、字幕付きプリントを上映致します。お問い合わせは下記の飯塚様へ。

東映株式会社 映画営業部 飯塚様 TEL:03-3535-7179, FAX:03-3535-7186

上映劇場	上映日程	電話番号	FAX番号
札幌東映	9月28・29日	011-231-2568	011-231-2569
旭川東映	10月5・6日	0166-22-7207	0166-22-7207
丸の内東映	9月29・30・10月1日	03-3535-4741	03-3563-1777
横浜伊勢佐木町東映	10月5・6日	045-261-3800	045-253-6838
豊橋東映	10月4・5・6日	0532-53-0515	0532-53-0515
名古屋東映	9月27・28・29日	052-971-3440	052-971-4012
富山東映	10月12・13日	0764-21-3276	0764-21-3419
京都大宮東映	9月20・21日	075-841-3714	075-841-3059
梅田東映	9月27・28日	06-345-7096	06-345-7296
神戸三宮東映	10月4・5日	078-391-6757	078-391-6758
広島東映	10月11・12日	082-221-0965	082-221-0966
福岡東映	9月21・22日	092-281-0757	092-281-0776
熊本東映	9月25・26日	096-356-7393	096-322-5924
小倉東映	9月29・30日	093-521-5250	093-551-6080
長崎東映	10月3・4日	0958-22-2482	0958-24-5517
佐賀東映	10月7・8日	0952-24-3904	0952-24-3904
鹿児島東映	10月12～18日	0992-24-6358	0992-24-6358

字幕付き映画をあなたの地でも**PiPi とべないホテル**

「PiPi」の上映に関しては、左記にお問い合わせをお願い申し上げます。

その際、必ず、「聴覚障害児者のための日本語字幕付きプリント」をご指定下さい。

問い合わせ先：〒160 東京都新宿区西新宿7-7-7 ハイライフ西新宿502
「PiPiとべないホテル」配給委員会 TEL:03-3365-4320 FAX:03-3371-0788
上映に関するお問い合わせ先：TEL:03-3371-0782

格安費用でループ席

島松小
赤病院

耳鼻科待合室に開設

難聴者聞き取りやすく

小松島赤十字病院（松森茂院長）は、耳鼻咽喉（いんこう）科待合室（約三十平方メートル）に、補聴器機能を補う磁気誘導ループ席を七月から開設した。補聴器利用者のため、徳島大学付属病院なども導入しているが、同赤十字病院は設置費用が格段に安い家庭用の器材を導入したのが特徴。同病院は「難聴者に優しい街づくりのため、一般の病院などに広げられ」と話している。

患者「公共機関に普及を」

導入したのは定価二万五千円、合席天井を囲うように、長千円の器材でループシステムとも呼ばれ、本体は片手で持てる大きさ。工事は約三十平方メートルの耳鼻咽喉科待合室に、同科は一日平均百二十人の患者があり、補聴器と目的の音を聞き分けると



ループ席を備えた小松島赤十字病院耳鼻咽喉科待合室＝小松島市中田町新開

とが難しい。しかし、ループシステムを使うと特定の音が受信しやすくなる。今後、補聴器利用者の増加が確実なことから、四月から試験運用を続けていた。一級特殊無線技士の資格も持つ同病院の浜口公志臨六町長尾によると「公共施設などで使われている器材はアンテナ線の埋設工事が必要で、費用も家庭用と比べかなり割高。元年に導入した徳大病院でも設置に七十万円かかった。三十平方メートル程度の広さなら家庭用で十分機能し、費用もかからないため多くの場所に設置が可能だ」という。

同科へ補聴器の調整にきていた田淵裕さん（六十九歳）

徳島新聞：7月13日掲載、本社の許可を得て転載

平面での漏れが問題にならない場合は、ターンループを選ぶべし。病院での、こうした取り組みを広げて欲しい。

学会予告

日本聴覚医学会（京都）10月3・4日

補聴・小児難聴に関する発表のみ掲載しました。また、紙面都合で第1口演者のみ記載。

補聴・小児難聴以外の演題は学会誌をご参照願います。会場＝京都全日空ホテル。

10月3日（木）
第10群：補聴Ⅰ（9：00～9：50）

雑音負荷時の語音了解度によるプログラマブル補聴器の比較・・・・・・・・今村明秀
 ソニー方式デジタル補聴器の特徴と効果・・・・・・・・三浦雅美
 デジタル圧縮増幅におけるリカバリータイムの検討・・・・・・・・設楽仁一
 ラウドネス補償型デジタル補聴器CLAIDHAの臨床応用・・・・・・・・佐々木直子
 CLAI DHA型ラウドネス補償デジタル補聴器の臨床的評価について・・・・・・・・日高浩史

第11群：補聴Ⅱ（9：50～10：30）

周波数圧縮変換型補聴器の幼児への適用とその効果・・・・・・・・高橋真由美
 ノンリニア補聴器の明瞭度曲線・・・・・・・・平石光俊
 FMワイヤレス補聴システムの電話対応とその効果・・・・・・・・疋田和彦
 C A S A を利用した赤外線補聴システムの評価・・・・・・・・加藤大典

第12群：補聴Ⅲ（10：30～11：20）

補聴器両耳装用の効果・・・・・・・・安達忠治
 リオン補聴相談室における両耳装用の検討・・・・・・・・高岡養三
 両耳融合による両耳補聴効果の評価の試み・・・・・・・・中川辰雄
 両耳装用における方向感－補聴器による差異－・・・・・・・・田中 豊
 両耳装用における方向感－評価法の検討－・・・・・・・・米本 清

第13群：補聴Ⅳ（11：20～12：00）

補聴器外来の現況・・・・・・・・園部紀子
 当科補聴器外来の初診時間診票について・・・・・・・・渋谷恵夏
 ラウドネススケールによる補聴器のフィッティング・・・・・・・・武智司尾子
 非直線増幅を活用した補聴器フィッティング・・・・・・・・三上純一

第14群：小児難聴Ⅰ（13：30～14：10）

指尖血流量測定による新生児聴覚スクリーニング・・・・・・・・木下道子
 埼玉県における1歳6カ月児聴覚検診の試み・・・・・・・・森田訓子
 1歳6か月児健診における聴覚検診・・・・・・・・荒尾はるみ
 3歳児健診対象児に対する保護者による聴覚自己検査の検討・・・・・・・・工藤典代

第15群：小児難聴Ⅱ（14：10～15：00）

新生児・乳児のABRの推移・・・・・・・・中尾美穂
 乳幼児聴力検査の適応年齢・・・・・・・・福田章一郎
 乳幼児の発達と聴力閾値の変化・・・・・・・・徳光裕子
 難聴児の診断経緯と背景因子・・・・・・・・土井玲子
 難聴が疑われてから確定診断に至るまでの経過について・・・・・・・・砂川紀子

第16群：(指定)検査(15:00~15:30)

話速変換語音聴力検査による語音弁別能力の分類・・・白石 浩

第17群：検査(15:30~16:30)

不快域値検査と耳小骨筋反射・・・佐野肇

難聴と音像定位に関する研究・・・武田英彦

第18群：検査(語音)(16:30~17:30)

騒音の中等度難聴者の語音聴取に及ぼす影響・・・鶴岡弘美

聴力型と語音弁別能曲線・・・角田保雄

調音結合による音節明瞭度の変化の検討・・・小寺一興

語音聴取閾値と純音聴力検査について・・・大氣誠道

新SRT(語音聴取域値)検査の開発・・・浅野和江

人工内耳・補聴器装用者に対する対話式語音聴力検査・・・宮田耕志

第27群：ABR(15:20~16:10)

乳児のハイリスクファクターとABR・・・末田尚之

第29群：中枢(16:50~17:30)

難聴者における聴性誘発脳磁界反応・・・藤木暢也

10月4日(金)

第30群：OAEⅡ(9:00~9:40)

新生児および乳幼児における各種耳音響放射・・・西嶋 隆

DPOAEによる乳児難聴スクリーニング・・・吉村恵理子

DPOAEによる急性感音難聴の経過観察・・・服部 琢

高度感音難聴と耳音響放射・・・渡邊健一

シンポジウム：誘発耳音響放射の臨床応用(11:00~12:30)司会 神崎 仁

乳幼児聴覚検査としての誘発耳音響放射の臨床応用・・・佐藤信清

耳音響放射の臨床応用—メニエール病と耳音響放射—・・・村上泰宏

突発性難聴の歪成分耳音響放射—聴力予後・経過との関係—・・・坂下哲史

耳鳴患者のDP-OAE・・・辻 純

第34群：〔指定〕人工内耳(14:00~14:30)

高度難聴幼児への人工内耳の適応・・・内藤 泰

補聴器と人工内耳の語音聴取能の比較検討・・・熊川孝三

第35群：人工内耳Ⅲ(14:30~15:10)

人工内耳装用者の聴覚現象・・・内藤明

周辺機器を用いた人工内耳の聴取能について・・・新谷朋子

人工内耳における聴取段階の経過の検討・・・佐藤千穂

小児人工内耳埋込み術症例の検討・・・杉井亜也子

第36群：人工内耳Ⅳ(15:10~15:50)

人工内耳を装用した先天性ろう児の聞きとり能力の変化・・・北野庸子

人工内耳を施行した先天性感音難聴幼児の言語発達・・・斎藤・宏

人工内耳適応peri-lingual-deaf小児への援助・・・・・・・・・・大久保有理
小児の人工内耳埋込み術前後に出現した心身症について・・・・・・・・井脇貴子

第37群：補聴V（9：00～9：40）

C I C（外耳道型補聴器）の検討・・・・・・・・・・猿谷昌司
補聴器装用による外耳の皮膚病変について・・・・・・・・杉内智子
骨導補聴器の装用法の改良・・・・・・・・・・立入 哉
両側小耳症・外耳道閉鎖症例のためのコードレス骨導補聴器に関するアンケート調査
・・・・・・・・・・加我君孝

第38群：補聴VI（9：40～10：20）

補聴器装用効果の測定方法について・・・・・・・・・・鬼頭芳雄
H H I E（高齢者のための難聴のハンディキャップ自己評定尺度）
用いた補聴器装用効果の評価・・・・・・・・・・岡本朗子
Virtual・Phoneを用いた二桁数字S R Tの試作・・・・・・・・原 由紀
補聴器評価のための疑似音場検査システムの開発（その2）・・・・・・・・竹内義夫

第39群：補聴VII（10：20～11：00）

骨導超音波による補聴・・・・・・・・・・細井裕司
成人における高音部聾に対する補聴器・・・・・・・・神田幸彦
高音急墜型難聴へC I C補聴器の適応・・・・・・・・斎藤 修
不聴長時間窓による増幅の補聴器への応用・・・・・・・・庄司和彦

第40群：検診（13：30～14：10）

滲出性中耳炎の罹患と言語発達・・・・・・・・・・能登谷晶子
学童を対象としたチンパノグラム6年間の観察例・・・・・・・・獅山富美子
盛岡市小学1年児童の聴力検査成績の検討・・・・・・・・小田島葉子
大学新人生に対する聴力検診について・・・・・・・・伊藤 健

第41群：リハビリテーション（14：10～14：50）

日常コミュニケーションに於ける手話の役割：その光と影・・・・・・・・船木フキ子

第42群：小児難聴III（14：50～15：20）

重複障害児の補聴器装用・・・・・・・・・・北川可恵
教育現場での耳かけ形FM補聴システム活用の現状と課題・・・・・・・・大山孜郎
両側小耳症及び外耳道閉鎖症に対する気導補聴器の装用工夫・・・・・・・・小原沢昌子

第43群：小児難聴IV（15：20～16：00）

先天性サイトメガロウイルス感染により高度難聴と平衡障害を呈した1例の発達について
・・・・・・・・・・池原由香
「相手の顔を見ない」重度難聴児の心身の発達と言語獲得・・・・・・・・野中信之
聴覚障害者による言語媒体の使い分けに対する家族構成の影響・・・・・・・・上久保恵美子
電話コミュニケーション指導の可能性と限界（1）・・・・・・・・佐藤紀代子

学会に関するお問い合わせ先は、日本聴覚医学会へ。

〒108 東京都港区高輪 2-14-14-707 TEL:03-3445-5834, FAX:03-3445-7880

補聴器新製品

Siemensよりノンリニア・プログラマブル補聴器

耳かけ形プログラム補聴器 VIVA 2 Pro+

- ・PR48電池を使用する、小型耳かけ形補聴器
- ・2ケのプログラムメモリを搭載
- ・デュアルコンプレッション機能を特徴とした、新開発のFDR Cノンリニア増幅
- ・携帯電話等からの雑音発生等の障害を軽減
- ・7種類のプログラミングパラメータ

CR : コンプレッション比

CK : ニーポイント

G : マスターゲイン

PC : 出力制限レベル

NH : 低域周波数レスポンスの調節

NL : 高域周波数レスポンスの調節

TILL/FFR : 低い入力音レベル時、TILLかFFRかを選択

- ・PMC対応 (Siemens Ver. 6.11以上) か、CONNEX (Ver. 1.2以上) 対応
- ・FOG60 60dB (ピーク64dB)、SSPL90 139dB以下 (ピーク)
- ・185000円



製品の詳細は、シーメンス・ヒヤリング・インスツルメンツ社へ

〒228 相模原市栄町6-6 TEL:0427-65-5611 FAX:0427-65-5601

ダスキンが「障害者リーダー育成制度海外留学生」を募集中

対象：障害をもつ方で、18～35歳

派遣人員：10名程度

派遣期間：3カ月以上1年以内、旅費の他に生活費も支給。

派遣地：アメリカの他、実行委員会が認める諸国

申込締切：11月20日（応募用紙は下記の基金に11月10日までに請求のこと）

応募用紙は190円切手貼付のA4サイズの返信用封筒を添えて下記に郵便で請求する。

詳しくは、ダスキン本社内（財）広げよう愛の輪運動基金、障害者留学生募集係まで。

〒564 大阪府吹田市豊津町1-33 TEL&FAX：06-821-5277